

特集 社会情報**社会情報学特集に寄せて**

総合情報学部 社会情報学系 松下孝太郎・茨木正治・堂下 浩・西村 明

本学は、総合情報学部と看護学部の2学部を設置しており、総合情報学部は情報システム学系、数理情報学系、社会情報学系より構成されています。

各学系は複数の研究室より構成されています。情報システム学系は、システムデザイン研究室、ゲーム・アプリケーション研究室、ネットワーク・セキュリティ基盤研究室、ネットワークシステム研究室、知能情報システム研究室、環境情報研究室から構成されています。数理情報学系は、数理情報研究室、データサイエンス研究室から構成されています。社会情報学系は、映像・音響研究室、ゲーム・CG・Webデザイン研究室、メディア文化研究室、経営イノベーション研究室、心理学研究室、スポーツ科学研究室から構成されています。

社会情報学系で扱っている研究・教育は、理系・文系・学際系など非常に広範囲に及びます。これらの広範囲を網羅する研究・教育をベースに、新しい価値を創造し、社会で活躍していくために必要な能力を持つ人材の育成。さらに、社会問題解決のための情報分析、生活者の利便性向上のための社会情報の提供、情報メディアを活用した表現活動など、多様な情報を創造、運用する能力を有する人材の育成を行っています。

社会情報学系の特色としては、研究・教育面においては、研究室独自の活動に加え、企業や市役所との連携研究、小・中・高等学校との共同研究などを、様々な連携・協力による研究・教育の推進を行っています。研究室が多様であることから、学生自身も文系・理系に関わらず、自身の希望する進路や興味にあった研究室を選択することができます。さらに、学生の進路も研究室が多様であることから広範囲に及ぶとともに、関連資格の取得指導も含め、個人の興味や適性を見つづ、適切な就職指導を行っています。

本特集号は社会情報学特集であり、主に社会情報学系所属の教員の研究を掲載しています。今回の特集では、論文6編、研究ノート2編を通常の査読の手続きと同様の過程を経て採録するに至りました。社会学分野からは時間意識に関する研究、絆に関する研究。経営・経済学分野からは起業家教育に関する研究、介護組織におけるマネジメントに関する研究、工学分野からは音響情報ハイディングに関する研究、政治学分野からは政治・言葉・レトリックに関する研究、教育学分野からは留学生を対象とした日本語教育に関する研究、金融学分野からは非銀行系金融に関するファクタリングに関する研究が採録され、社会情報学の特徴を反映した広範囲を網羅しており、本特集号の趣旨に合致し、読者の興味を引き出すことが期待できる内容となりました。

最後に、論文を投稿頂いた筆者の方々、これらを限られた時間のなかで丁寧に査読頂いた査読者の方々、さらに査読の依頼から編集までを行って頂いた編集委員の方々に深く感謝致します。